

わたしたちは生ける神の神殿

今日は神殿というのがテーマです。子どもたちは神殿って分かるかな？そう思って今日はいろいろな神殿の写真を持って来ました。学校の授業やテレビなどで見たこともあるかもしれませんが、ギリシアの神殿なんかが有名ですよ。こうしたものです。何のために人々はこうした神殿を建てるかという、ここに神様住んでくださいよということなんです。神殿というのは、一言でいえば神様の住まいです。人々はここで神様と出会って、いろいろな儀式をしたわけです。

で、こうした神殿というのはイエス様の時代、ユダヤ人たちの中にもありました。イエス様の時代よりもはるか昔々、イスラエルの人々がまだ荒野という厳しい所をさま迷っていた時代には、「幕屋」と言って、こうしたものを自分たちの中に移動しながら建てて神殿みたいにしていたんです。それが、イスラエルの人々が定住って分かるかな、決まった所に住むようになってから、ソロモンという王様の時代に神殿という建物が建てられました。この神殿はバビロニアという国に一度破壊されて、イスラエルの人々がこのバビロニアという国に連れていかれてしまうんですけども、このバビロニアが滅びてイスラエルの人々が自分たちの国に戻って来ることができた時にもう一度建てられます。で、それから時が経ってヘロデという王様がこの神殿を立派に工事して、イエス様の時代にはこんな豪華な神殿が建っていたのです。人々はそこで神様と出会い、罪を赦してもらったためのいろいろな儀式を行っていました。

このように、イスラエルの人々はずっと神様が中心にいる生活をしていたんですね。神様なしには何も始まらない。何よりも神様とその御心を大事にする生活をイスラエルの人々は心がけていました。けれども、イエス様の時代にはこの神殿がお金を集めるための施設になってしまったりして、肝心の神様に仕えるという心が失われていたんです。それでイエス様は神殿の敷地に入られたときに、そこにいた商人たちを追い出したりして猛烈な抗議をされて、この神殿はやがて滅ぼされてなくなるよということまで仰られました。結局イエス様のそのお言葉通り、紀元70年にローマ軍の手

によって神殿は壊されてしまいます。今では「嘆きの壁」と言って、その残骸だけがエルサレムに残っているという状態です。

今日の聖書箇所であるコリントの信徒への手紙二 6:14～7:1 はパウロさんという人の言葉ですが、この言葉はこのように人々が神殿において神様に仕えるという心を見失い、その裁きでしょうか、神殿が壊されていく流れの中で語られたものです。この中でパウロさんはとても大切なことを語っています。「わたしたち」が「生ける神の神殿なの」だと言うのです。

たしかに神殿はそこで神様と出会う、神様の住まいです。でも、神様はそこにしかおられない方では決してありません。同じように今の私たちも神様を礼拝しに毎週教会にやって来るけれども、神様は教会にしかおられないというわけでは決してないのです。神様はこの世界のどこにでもおられます。神様のおられないところなどありません。大変な所にこそ、神様はおられるのです。その意味では、地上のどこにも、大空だって神様をその内に収めきることはできません。そして、その神様は私たち一人ひとりの心にも住みたいと願っておられます。

でも、ここで自分自身を振り返ってみて、私たちは心の中に神様を宿すことができているでしょうか。皆の心の中に、神様はいてくださっているかな？世の中を見渡せば、心の中が自分でいっぱい、神様がそこに住みたいと願っておられるのにその余地もなく、神様を追い出してしまっている人がたくさんいるように私には思えるのです。

たとえばお友達と喧嘩したとします。そういう時は神様が心の中にいらっしゃって、「赦してあげて」と言っておられる、そして愛のある方向に導きたいと願っておられるのに、「なんだあいつ。腹立つ」という自分の感情ばかりで心の中をいっぱいにして、神様を心の中から締め出してしまおう、結果、愛のないことばかりしている、そんなことはないでしょうか？

あるいは困っている人がいたとします。神様はきっと私たちの心に住んで、「助けてあげて」と言いたいことでしょう。けれども、自分の損得ばかりで心の中をいっぱいにして、神様を締め出して、愛のないことばかりしていないかな？

自分の損得、自分の感情、そんなものばかりで心がいっぱいだと、神様もイエス様も心の中に住むことはできません。パウロさんは「そんな風に心の中を自分でいっぱいにしていたらだめだよ。そんなふうにしていたら、悪魔に心を支配されちゃうよ。神様とその愛でいつも心を満たして悪いことから遠ざかりなさい。そして、いつも神様と一緒に、神様に仕えて生きていきなさい」と、今日の聖書箇所の中で私たちにアドバイスをくれています。

そのアドバイスをしっかりと聞いて、教会でイエス様のこと、神様のことを聞くたびに神様の愛を感じて、自分の心に神様、イエス様をお迎えするスペースを空けましょう。礼拝のたびに神様の御心に立ち返り、神様、イエス様を自分の心の中に宿していつもの生活に戻っていききたい、そして普段の生活の中で神様の愛に溢れた生き方をしていきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——